

時間割コード	G2B4F503	開講年度	2026			
授業題目	地域課題PBL E (横断テーマ・フィールド型)				担当教員	佐々木 康浩
英文授業名	Regional Problem-Based Learning Course E (Cross-Disciplinary Fieldwork-Based)					勝亦 達夫・宮木 慧美・田嶋 朝羽
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				・地域課題を自ら設定し、調査・分析を通じてその構造的背景を理解できるようになる。 ・自身の専門分野の知識・技能を活用して、課題解決の方向性を企画・提案できるようになる。 ・他者との対話を通じて、多様な視点を統合しながら協働的にプロジェクトを遂行できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働、健康長寿、防災減災、キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ShinXiaコース(ShinXia)					
(4)授業の概要	本授業は、地域社会が抱える具体的な課題を題材に、学生が自ら「課題設定」から「解決策の提案」までを行うPBL (Problem-Based Learning) 形式の科目である。 学生は、連携先の自治体・企業・NPO等から提供されるテーマに基づき、調査・対話・試行・提案のプロセスを実践する。教室での学習に留まらず、現場での活動を通じて多様な主体と協働し、地域活性化に資する実践的な能力(課題発見力・解決力・対話力)を習得することを目的とする。 本科目は共通の全体構造に基づき設計されているが、コースごとにアプローチ手法(モノづくり、フィールドワーク、ワークショップ等)が異なる。 本講座は、【Eコース(横断テーマ・フィールド型)】として実施する。					
(5)授業のキーワード	地域社会：地域活性化、地域資源、地方創生 学び：PBL(課題解決型学習)、探究的な学び、フィールドワーク 文化・観光：食と観光、伝統文化 産業・DX：地場産業 社会：多世代交流					
(6)授業計画	本授業は、学生が主体となり、自治体・企業・NPO等の「受入主体」と連携して地域課題の解決に挑む実践型プログラムである。学習プロセスは、以下の5段階で構成される。 インプット：地域の現状や背景を深く理解し、情報を収集する。 課題設定：現状分析に基づき、解決すべき本質的な問題を特定する。 ワーク：課題解決に向けた具体的な提案を練り上げ、実践と検証を行う。 発表：成果を可視化し、プレゼンテーションを行う。 評価：活動プロセスと成果を振り返る(ポートフォリオの記入)。 各コース(テーマ)の特性に応じた柔軟な期間・手法を用いつつ、学内外で実施する。 最終成果は全コース合同の発表会にて共有し、多様な視点からの学びを深める。 本授業では、実際のプロジェクトで課題を課遣いながら実施する。 長野県日本酒振興プロジェクト 本プロジェクトでは、長野県の各地の地酒を題材に、地域産業と文化の魅力を実践的に探究する。酒蔵や関係事業者へのフィールドワークやヒアリングを通じて、日本酒の歴史・製造・流通・消費の仕組みを学び、地域が抱える課題や可能性を多角的に分析する。その上で、商品企画、ブランディング、プロモーション、イベント提案などに取り組み、実社会とつながる提案を行う。地域の現場と協働しながら、課題設定力、企画力、コミュニケーション力、チームでの実践力を高め、地域と産業の未来を構想する力を養う。 AI共生時代における豊かな暮らしを実現するための地域課題解決プロジェクト やデジタル技術を活用しながら、身近な社会課題や地域課題を発見し、解決策を構想・実践する。個人や社会に潜在する課題を再定義し、デジタルツールやAIを活用した解決プロセスを設計・検証する。企業・地域との連携を通じて、課題設定力、思考力、協働力、実装力を総合的に高める。 内容 第1回 ガイダンス・プロジェクトの理解 授業の目的、PBLの進め方、評価方法を説明するとともに、地域活性化をテーマとしたプロジェクトの概要と最終ゴールを共有する。 第2回 目標設定と課題構造化の基礎 地域や産業を取り巻く構造や現状を理解し、課題を整理・構造化するための基本的な考え方や手法を学ぶ。 第3回 課題に対する基礎知識の習得 対象となる地域や産業、地域資源に関する基礎知識を学び、地域課題を考えるための前提理解を深める。 第4回 課題の背景・要因分析 文献やデータ等を用いて、地域課題が生じている背景や要因を調査・分析し、課題の本質を捉える 第5回 現場理解(ヒアリング・フィールドワーク等) 地域や現場に関わる当事者からの講話等を通じて、現場視点での課題を理解し、これまでの学びを振り					

(6)授業計画	返る。 第6回 課題の再定義・問いの設定 これまでのインプットを踏まえて課題を整理・再定義し、プロジェクトとして取り組む問いを言語化する。あわせてチーム編成を行う。 第7回 事例研究・アイデア発想 地域活性化や若者向けPR・イベント等の事例を学び、課題解決に向けたアイデア発想の方法を習得する。 第8回 課題解決提案の作成（コンセプト設計） 企画設計の基本を学び、チームごとに課題解決に向けた企画案（たたき）を作成する。 第9回 課題解決提案の作成（具体化・ブラッシュアップ） 企画や運営上の条件を整理し、実現可能性の観点から企画内容を検討・改善する。 第10回 課題解決提案の作成（実行計画） 計画や運営設計を具体化し、当日の役割分担や実施計画を策定 第11回 課題解決実践（準備・リハーサル） 企画実施に向けた準備を行い、進行や役割分担の確認、リハーサルを通じて実践力を高める。 第12回 課題解決実践（実施/実働） 地域をフィールドとしたイベントや企画を実施し、課題解決の実践を行う。 第13回 課題解決実践（実施/実働） 地域をフィールドとしたイベントや企画を実施し、課題解決の実践を行う。 第14回 発表・評価 成果発表に向けた分析・振り返り 実践内容や成果を振り返り、課題・取組内容・成果・学びを整理した発表資料を作成する。 第15回 発表・評価 成果発表・ポートフォリオ作成 チームごとに成果発表を行うとともに、活動プロセスと成果を振り返り、ポートフォリオを作成する。 授業アンケート（大学共通・ShinXia個別）の提出を行わないと最終課題を提出できません。 発表・評価 合同成果発表会 相互評価の場として開催し、他プロジェクトや関係者との合同成果発表を行い、学びを共有するとともに地域や社会への発信を行う（後期に開催予定で、参加は任意ですが、参加を推奨する）。 ・地域の方や協力者を招いた公開報告会での講評と総括
(7)成績評価の方法	・課題設定と分析：20点 ・中間発表とフィールドワークへの参加：20点 ・最終提案と発表：30点 ・個人ポートフォリオおよび最終レポート：20点 ・協働的態度と学習姿勢：10点 合計：100点 合同成果発表会や公の場（県や大学が主催する取組報告会や事例発表会等）で発表をした場合は、成績評価を加点する。
(8)成績評価の基準	本授業では、学修目標の達成状況を総合的に評価します。評価は、課題に対する取組状況やチームでの貢献、個人での学習成果、発表・レポート等をもとに以下の基準で行います。 ・課題設定・分析の過程において、地域課題に対する理解を深め、適切な問いを設定できていること。 ・チーム内での協働的な姿勢をもち、役割を果たしていること。 ・イベント実施・発表において、企画意図や成果を的確に伝えることができていること。 ・各回の学びや成果をポートフォリオに丁寧に記録し、自己の成長や学びを客観的に振り返ることができていること。 ・事前学習・事後学習を含め、全体として「合格水準にある」こと。 期末時にすべての合計点を基に、授業の達成目標に対して5段階で判断を行う 90点以上:秀(基準から卓越している) 80点以上:優(基準よりも、かなり上にある) 70点以上:良(基準よりも、やや上にある) 60点以上:可(基準を満たしている) 59点以下:不可(基準を満たさない)
(9)事前事後学習の内容	【事前学習】地域課題・テーマに関する調査、参考事例の確認 【事後学習】ポートフォリオの記録、学びの振り返り、レポート作成
(10)履修上の注意	・授業の詳細な内容は、各コースのLMS・ガイダンス等で説明するので、確認の上受講をしてください。 ・グループワークが中心となるため、出席と積極的な関与が求められる。 ・外部機関との連携や現地での活動があるため、受講にあたってはフィールドワークがあることを留意してください。授業のガイダンスで内容を確認の上、受講してください。 ・授業は不定期集中で実施する。講義は各地を繋いで実施するため、オンライン/オンデマンドを用いて実施することがある。
(11)質問、相談への対応	オフィスアワーについては、ShinXia-LMS上でお知らせします。 質問がある場合には、担当教員の佐々木康浩まで、メールしてください。 ysasaki@shinshu-u.ac.jp
(12)授業への出席	・全ての回に出席することを前提とします。他キャンパスからの受講も可能なためオンラインを併用します。授業の出欠は、毎週の課題の提出で確認します。 ・なお、止むを得ない事情により提出などができなかった場合は、授業後に担当教員に申し出てください。 ・現地への移動手段などは、参加人数により配慮する場合があります。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	授業内で指示する補充の課題に取り組むことを学修の補充とする。
【教科書】	特に指定しません。

【参考書】	特に指定しません。
-------	-----------